


京極読書新聞 <第87号>

発行日 平成29年3月1日(水)
京極町生涯学習センター湧学館



各学校より
1年間を振り返って



■京極小学校 仲倉 里穂 先生

本の世界は、無限大です。今年度も、湧学館の方々と連携を取りながら、たくさんの本の世界に触れることができました。

図書委員会では、図書室でのイベントや飾り作りなど、様々な取り組みがありました。一年間通して特に好評だったのが、しおりを配るイベントです。期間中、2冊借りた児童に、図書委員手作りのしおりをプレゼントしました。手作りのしおりは、きちんとラミネートされ、リボンがつけられた立派なしおりです。「しおりがほしくて借りてみた本、面白かったよ」の声が聞かれたときの図書委員の笑顔が、印象的でした。

図書室の前に、「読書の木」のコーナーを作りました。友達に紹介したい本を、葉の形に切った画用紙に書いて、「読書の木」に飾ります。今では、たくさんの児童が書いた葉が飾られ、立派な木になりました。また、誰かのおすすめの本が置かれ、その本を借りるときは自分のおすすめの本

を置くことができる、「どうぞの本」のコーナーも図書室に新しく入りました。

各学年様々な内容で行われたブックトーク。「動物を描いた本」や「宮沢賢治の本」など、テーマごとにたくさんの本を紹介していただきました。

図書室には、今年度たくさんの新刊図書が入りました。湧学館にあるたくさんの本、図書室に入った新しい本、子どもたちにはたくさんの「読む贅沢」があります。いつでもどこでも、自分の好きな本を贅沢に読むことができるように、来年度も努めていきたいと思えます。

京極読書新聞は
毎月1日発行予定です



■南京極小学校

土屋 真由子 先生

今年も、湧学館の方に季節やおすすめテーマに沿ったたくさんの本を紹介していただきました。出前図書で紹介してくださる本はいつも「どんな本かな？読んでみたいな！」と思うものばかりで、バリエーション豊富な本との出会いに、子供たちだけでなく先生方もワクワクしていました。また、本の内容はもちろん、題名や挿絵からも本を楽しむことができることを教えていただきました。

さて、今年度の南京極小学校での取り組みを紹介します。昨年度から、月に1度「読書週間」を設定しました。継続していく中で、子供たちが新しいジャンルの本を手取る機会・友達と本の楽しさを共有できるよい機会となっています。

児童会の学習部は、会話文の読み方やスピード、ページのめくるタイミングなど練習し、朝読書に「読み聞かせ」をしました。発表する側は、人に伝わるように意識しながら練習することで表現力が育ち、聞く側にとっては読書への意欲づけにつながったと感じています。

今後も、子供たちが本に親しみ、豊かな心の栄養になるような読書を続けていけるように努めていきたいと考えています。

最後になりましたが、4月から新しい環境で生活する9人のために「転校」のテーマなどの本をもってくださるなど、今の子供たちに合った本選びをしてくださり、本当にありがとうございました。子供たちは、新しい学校でも出前図書があることをとても楽しみにすることと思います。これからもよろしくお願い致します。

■京極中学校

惣万 大輝 先生

京極中学校の図書コーナーは、学芸専門委員の生徒が中心となり、管理・運営をしています。昼休みには毎日、図書を借りにくる生徒や学習をする生徒が足を運びます。全校生徒が本と関わることのできる場所として、重要な役割を担う場所です。学芸委員の生徒はそんな場所をより良いものにしよう、そしてもっと多くの生徒に本に親しんでもらおう、という気持ちで図書コーナーを運営してくれました。毎月各学級に20冊ずつ図書を設置し、それがきっかけで本を借りに来る生徒もいました。時期によって、または学級によって、「今はみんなこんな本に興味があるのではないか」と考えて図書を選んでおり、1人でも多くの生徒に本を手にとってもらおうという気持ちが伝わってくる活動でした。

毎年たくさんの新刊図書も入ります。今年度はそれに加えて、京極町出身の川向様から寄付金を頂いたことで、さらに多くの図書が入りました。感謝の気持ちを込めて、寄贈図書コーナーを設けています。現在もこのコーナーにある本を手にとり、多くの生徒が活用しています。新刊図書が入ると本の貸し出しもいつも以上に賑わい、とても活気のある図書コーナーになります。

今後も生徒がたくさんの本と出会い、有意義な読書生活を送れるような図書コーナーにしていくために、今ある活動にとらわれることなく、新しい発想でこの場所を創って欲しいと思っています。



発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京極町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.jp>



平成28年度活動状況

- 4/ 1 (金)〔巻十〕「海道下」③
 4/15 (金)〔巻十〕「千手前」①
 5/ 6 (金)〔巻十〕「千手前」②
 5/20 (金)〔巻十〕「横笛」①
 6/ 3 (金)〔巻十〕「横笛」②
 6/17 (金)〔巻十〕「横笛」③
 7/ 1 (金)〔巻十〕「維盛出家」①
 7/15 (金)〔巻十〕「維盛出家」②
 8/ 5 (金)〔巻十〕「熊野参詣」①
 8/19 (金)「黒滝千織・京都レポート」★行事
 第一部<『平家物語』を読む会と私>黒滝千織さん
 第二部「北垣国道を通して見た京都と北海道」
 京都薬科大学 鈴木栄樹教授
 9/16 (金)〔巻十〕「熊野参詣」② ※日程変更
 9/23 (金)〔巻十〕「維盛入水」
 10/ 7 (金)〔巻十〕「三日平氏」①
 10/21 (金)〔巻十〕「三日平氏」②
 11/ 4 (金)〔巻十〕「藤戸」①
 11/18 (金)〔巻十〕「藤戸」②
 12/ 2 (金)〔巻十一〕「大嘗会の沙汰」
 12/16 (金)〔巻十一〕「逆櫓」①
 1/ 6 (金)〔巻十一〕「逆櫓」②
 1/20 (金)〔巻十一〕「逆櫓」③
 2/ 3 (金)〔巻十一〕「勝浦付 大阪越」①
 2/17 (金)〔巻十一〕「勝浦付 大阪越」②
 3/ 3 (金)〔巻十一〕「勝浦付 大阪越」③
 3/17 (金)〔巻十一〕「嗣信最期」①

} 予定

湧学館 「製本教室」の十年

湧学館司書 新谷 保人

近隣の図書館ではあまり聞いたことがない、湧学館独特の仕事として「製本教室」と「本の病院」があげられます。毎日、壊れた本を修理したり、読書会で読んだ作品を一冊にまとめて湧学館オリジナル本をつくったりと、なんか器用な図書館だなあと思う人もいるかもしれませんが、じつはこれ、同じ一つの仕事なのです。本の造りをしっかり学べば、造りの壊れた部分を直すことも、造りに沿って本の形に仕上げに行くことも、なんでもできるようになります。そんな湧学館の十年を、「製本教室」が生み出した作品群をたどって紹介してみましょう。

1. 「折り本」時代

(平成19～21年度)

- 「平家物語 巻一」
- 「東俱知安線建設概要」
- 石川啄木「忘れがたき人人」

本一冊作るのに一週間みてくれば大丈夫といった現在の湧学館から見れば、十年前の製本技術はおよそ初歩的なレベルに低迷していた図書館でした。製本作業にはつきものの「糸綴じ」技術が苦手で、もっぱら「糸綴じ」を必要としない「折り本」作品ばかりつくっていたことを懐かしく思い出します。

当時の製本教室講師には、小樽市立図書館の製本ボランティアで活躍されていた北間正義氏をお願いしていました。北間先生からは、もっともっと面白い本作りがあるんだからどんどんチャレンジして行こう！と発破をかけられるのですが、なにか「折り本」段階で自己満足していたような時代でした。私たちが「糸綴じ」を怖れなくなるのはこの次の時代。読書会活動が始まって、私たちの中に「つくりたい！」という気持ちが爆発的に溢れてきてからです。

2. 「糸綴じ本」時代

(平成22～23年度)

- 「春蘭 峯崎ひさみ短編集」
- コデックス装「平家物語」巻三～巻五
- 「約束 峯崎ひさみ作品集」

平成22年は京極町出身の作家・峯崎ひさみさんとの出会いの年。一冊の本『穴はずれ』との出会いは、たしかに湧学館の有り様を変えました。みんなにこの本を読んでほしい！ そのためには湧学館の本棚に峯崎さんの本が並んでいることが必要だ。じゃあ、本をつくろう！と、どんどん湧学館の製本技術は向上していったのでした。

北間先生の講師時代は平成23年度で終了。平成24年からの講師は新谷がつとめるようになります。平成23年度最後の作品は峯崎ひさみさんの『約束』でした。収録作品の決定からフォント実験・装丁・表紙デザインまで、すべてを自分の責任で一冊の本をつくり終えたことは今後の大きな自信となりました。